

世界で「むつ市のうまい」をトップセールス

県内、日本国内で消費される「むつ市のうまい」は世界にも通用するはず。ターゲットを吟味し、トップセールスで売り込む取組みにも積極的に参加しました。



世界にまで 目を向けたプロモーション戦略

むつ市と八戸市、青森市、弘前市、東北町、おいらせ町、青森銀行、みちのく銀行および参加企業とで組織する Japan Aomori Food Fair 実行委員会が、地域企業の海外における販路開拓・拡大を図り開催したイベント「Japan Aomori Food Fair 2018」に参加。今、経済発展著しい国ベトナムホーチミンを舞台に、販売・PRする物産展や商談会に市長自らが出向き、むつ市のうまいを売りました。

ターゲットを見据え 効果的に売り込む

6億人という巨大市場であるASEAN諸国において、人口9300万人のベトナムの平均年齢はなんと28歳と若く、今後人口が1億人を超えることも見込まれます。さらに、アジア諸国では「日本産」というブランドイメージの定着と富裕層の増加により、プロモーションの手法によっては今後このような取組みをきっかけにむつ市のうまいが世界規模で取引される可能性が無限に拡がります。



Japan Aomori Food Fair 2018は、大盛況のうちに幕を閉じた。

物産展にはむつ市から(有)サンマールワイナリーがりんごワインを出展。会場となったホーチミン中心部にあるホーチミン高島屋は午前9時30分の開店から午後10時の閉店まで一切客足が途絶えることがなく、多くの買い物が訪れ、物産展は大変な賑わいをみせました。用意したりんごワインの売れ行きは好調で、イベントの終了を待たずに売り切れ。購入者からは、「自分のビジネスパートナーへの贈答用に購入した。ベトナムでも有名な、日本産りんごの高級ワインとしてプレゼントしたい。」との声をいただきました。客層はやはり20〜30歳代が多く、今後も購買力が見込まれるなかアジアの商圏に確かな手応えを感じました。

出展商品は売り切れ アジア商圏に手応え

まちをあげての取組みがとっても良い

毎日のように購入者のお宅を訪問して商品をお届けし、それが自然とコミュニケーションにつながり、万一の事態を未然に防ぐことがあります。約50名のヤクルトレディが地域を見守る青森ヤクルト販売(株)むつ営業所は、むつ市とみんなで見守る協定を締結し、認知症サポート事業所にも認定されています。

毎日のように接するからこそ 気づくこと

「日頃の業務形態を活かし、以前は『愛の訪問活動』という活動にも取り組んでいました。ですから、市がみんなで見守る協定締結や認知症サポート事業所認定などの取組みを始めるというお話しに、私たちも協力していくということはごく自然の流れでした。



青森ヤクルト販売株式会社むつ営業所 所長 大久保 貴美子さん



いつもの時間にいつも笑顔で出てきてくれる。毎日のように訪問するお仕事だからわかること。

特に当社のヤクルトレディたちは毎日のように直接お宅を訪問しています。そうすると、だんだんお住まいの方の性格なども見えてきて、例えばあるお宅は『毎日ヤクルトレディが訪問する時間は必ず鍵を開けてくれる』とか、『返事がないときは裏の庭にいる』ということ、『感心に雪を片付ける方』など。でも、それがいつもと少し違うな、ということや毎日のように顔を合わせているから気づくことができるんです。」

実際、異変を察知したケース

「いつも几帳面な方で、決まった時間に来てほしいとの申し出を受けている男性がいました。でもその日は、玄関で応答がありません。この時点で担当のヤクルトレディはいつもと違うと感じていました。



みんなで見守る協定(左)、認知症サポート事業所(右)のステッカー。それぞれ協定締結、認定を受けている事業所へ配布されている。

普段から訪問していない方だったら、玄関先で『留守なんだな』くらいにしか思わなかったかもしれませぬ。」

まちをあげて 取り組むということ

「地域の見守りに市をあげて大々的に取り組むということは良いことだと思います。このような協定を結ぶなどして市が意識的に取り組んでいるんだということを発信することで、市民のみなさんの意識も大きく変わるのではないかと思いますし、同時にこの先の時代は、もっともっとこのような取組みが必要になってくるのだらうとも思っています。」

むつ市が目指す姿

人口減少や少子高齢化の進行、市民のライフスタイルや価値観の多様化などにより、地域課題は複雑化してきています。そのような中で、豊かな自然環境や各地域に伝承されている様々な伝統文化など、特色ある地域資源に恵まれたむつ市は、下北地域の中心市としての役割を担い、将来にわたって人と自然がともに輝く持続可能なまちづくりが求められています。4回にわたって開催されたむつ市長期総合計画策定市民会議では、むつ市の誇りとして「食」「水」「空気」「温泉」「祭り」「歴史」「郷土芸能」「ジオパーク」などといった意見が多数挙げられました。

また、「10年後どんなむつ市になっていたいですか?」といった問いに対しては、多くの市民のみなさまが「子どもがたくさんいて、楽しく、暮らしやすく、にぎやかで、活気のあるまち」などといった笑顔と希望にあふれるまちの姿をイメージしていました。

このような市民のみなさまが思い描く10年後の理想像を実現するために、誇れる地域資源を守り活かしながら、みんなが輝けるまちづくりを進めていく必要があります。むつ市は、子どもから高齢者まで全ての市民のみなさまが笑顔で輝き、未来に向かって輝く夢や希望が持てるようなまちの実現を目指し、「笑顔かがやく希望のまちむつ」を将来像に掲げ、これからも挑戦し続けます。



むつ市長 宮下 宗一郎